



中小企業診断士の2次試験において、最良の試験対策となるのが過去問演習です。多くの受験生が取り組む過去問ですが、ただ問題に取り組むのではなく、「準備」「演習」「復習」の各段階で工夫をすることにより、その演習の効果を高めることができます。

本特集では、ライバルに差をつける「一発合格道場」流の過去問演習の手法を解説します。

1 本番を平常心で乗り越える準備を

年に1度の勝負である2次試験においては、試験当日に従来どおりの力を発揮し、事例ⅠからⅣまでを通して60点の合格ラインにぶら下がり続けることがとても大切になります。

しかしながら、実際は十分に対策をしても、本番の緊張感から思わぬミスをしてしまう人が続出します。そのため、普段の過去問演習から本番に近い環境を用意して慣れておくことで、本番を平常心で乗り越えられる準備をすることが重要です。

2 本番に近い環境づくり

(1) どのような場所が適切か

まず、過去問演習を行う場所に関して、図書館

や自習室など、雑音が少なく本番さながらの集中力で取り組める環境を選びましょう。

この際、自宅やカフェなどでも、ある程度は集中することはできます。しかし、重要なのは本番同様の集中力で演習することです。したがって、日常とは異なる場所で演習することが望ましいといえます。

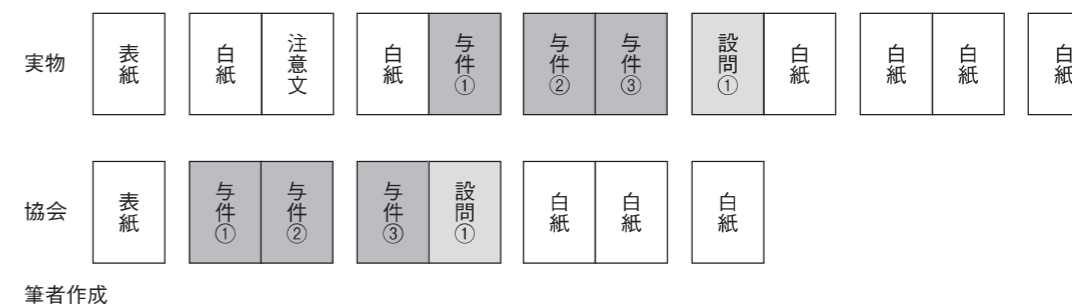
(2) 1日の流れ

次に、過去問演習のスケジュールに関して、本番同様に1つの事例について80分間を計測して取り組みましょう。また、できれば休日を利用して、朝起きるところから本番と同じタイムスケジュールで1日を過ごすことをお勧めします。

具体的には、試験当日と同じスケジュールで起床・準備を行い、試験開始時刻の9時40分より早めに自習室に入ります。机の上は時計、実際に使用する予定の筆記用具、裏向けた問題用紙・解答用紙だけにします。開始5分前には精神統一して本番のつもりで集中し、9時40分から事例Ⅰを開始。その後も、休憩時間を含めて本番と同じスケジュールを踏襲し、事例Ⅳを17時20分に解き終えます。

これにより、試験中に確認する時計の表示が本番と同じ状態になり、本番に緊張で時間を見間違

図表 問題用紙の見開き



えるリスクを減らすことができます。また、疲労感のある状態で事例Ⅳの問題を解き慣れることで、本番に予期せぬ計算ミスを犯すリスクも減らすことができます。

たる部分が2箇所、ホチキス留めされています。一方、解答用紙はA3サイズを2つ折りにした大きさです。この形の用紙を手に入れるには、コンビニエンスストアの印刷サービスが便利です。

④問題用紙は見開きに注意

問題用紙を印刷する際、注意すべき点があります。中小企業診断協会が公開している問題用紙のPDFをそのまま印刷した場合、実際の問題用紙のページ割を図表に示します。

両者を比較すると、与件文が見開きの右ページから始まるか左ページから始まるか、異なっています。PDFを編集できる方は空白ページを挿入するか、前掲のAASが公開している問題用紙のPDFであれば左右の位置関係は本番のものと同じなので、そちらを使うと良いでしょう。

⑤問題用紙の破り方も練習しよう

2次試験の本番では、多くの受験生が問題用紙を何らかの方法で破って、メモ用紙や計算用紙として使っています。人それぞれですが、自分に合った方法をあらかじめ準備しておきましょう。

問題用紙や解答用紙の実際の形状や破り方については、一発合格道場のブログで動画も交えて紹介しています。実際のイメージをつかむ際の参考にしてください。

(3) 演習で使用する問題用紙・解答用紙

①本番に近い用紙を使うことの重要性

過去問で演習を行う際、本番に近い環境づくりと同じくらい重要なことがあります。それは、問題用紙・解答用紙もできるかぎり本番に近い形のものを使うことです。演習でできるようになったことを本番でもそのまま再現するため、紙の大きさや文字のサイズなど、本番と揃えられるところはできるかぎり揃えるようにしましょう。

②データを入手する

中小企業診断協会のウェブサイトには、過去問の問題用紙がPDF形式で公開されています。解答用紙については、資格学校のウェブサイトでも公開しているところがあるので、それを使用すると良いと思います。

一例として、AASのウェブページを紹介します。

■ AAS 中小企業診断士
2次試験対策専門校
2次試験過去問ダウンロード



③用紙のサイズ・形

問題用紙はB5サイズの小冊子で、背表紙に当

■一発合格道場ブログ
【永久保存版】【2次試験】
実物と（物理的に）同じ過去問を手に入れる方法 by にに

